

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成18年11月2日(木) 授業Ⅱ

場 所 2年2組教室

児 童 男子13名 女子12名 合計25名

指導者 佐藤 はるみ

- 1 単元名 お話を楽しもう (光村図書 2年下)
教材名 「スーホの白い馬」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、場面の様子の移り変わりや登場人物の気持ちなどについて想像を広げながら読み進めるとともに、いろいろな話に興味を持ち進んで読もうとする意欲へとつなげていくことを目標とし、モンゴルに古くから伝わる民話をもとにした叙情豊かな教材文と互いに好きな本を紹介し合う活動で構成されている。

本教材「スーホの白い馬」は、モンゴルの大草原を舞台に、たくましく心優しいスーホとスーホに助けられ愛情込めて育てられた白馬との心の交流と固い絆をテーマとした物語である。場面が移り変わり、さまざまな出来事が次々と起こっていく話の展開のはやさや、その中でどんどん結びつきを深め、白馬の死という悲しい別れの後もなお心の中で寄り添っていくという心の内面に入り込む内容の深さは、子どもたちにとって初めてといってよい内容の教材である。かなりの長文であるが、一つ一つの場面が感動的であり、子どもたちは最後まで興味を持って読むことができるであろう。また、様子や気持ちを表す言葉や比喩的表現など巧みで豊かな表現に子どもたちは想像力をかきたてられ、物語の世界に浸ることができると思う。

(2) 児童について

本学級の児童は、1学期、物語文「スイミー」で物語の展開や場面の様子を表す表現のおもしろさに想像を広げたり、登場人物になって気持ちを考えたりする学習をしてきた。さらに、前単元の物語文「お手紙」では、会話文を中心にして、時間的な場面の流れや登場人物のやりとりから、気持ちの移り変わりを読み取る学習をしてきた。視写をしたり主述に着目してサイドラインを引き、話の内容を正確にとらえたり、登場人物の気持ちをつかんだりしてきた。読んだり書いたりすることが苦手な子もいるが、音読練習や全文視写を続けることで、少しずつ克服している。

読書の好きな子は多い。短い文章の絵本を好んで読む子が多いが、平行読書や発展読書で読書の幅を広げている。

(3) 指導にあたって

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」ことである。本単元では、教材文の場面の移り変わりや様子を正確に読み取っていくこと、また、それぞれの場面でテーマとなるスーホと白馬の心の結びつきを感じさせていくことで物語に浸ることができ、読む楽しさへつながっていくと考える。

つかむ段階では、物語の舞台となるモンゴルは子どもたちには馴染みが薄いため、まず写真や挿絵でモンゴルの土地や遊牧民の生活について理解したうえで全文概観をさせていきたい。全文概観ではスーホ行動に焦点を絞ることで、話の筋をとらえさせ、課題や読み取りへの見通しを持たせたい。

たしかめる段階では、視写や音読を取り入れながら、場面や登場人物の様子を主述に基づいて読み取ることがをていねいに扱っていきたい。そのうえで大切な言葉や豊かな表現から想像を広げ、登場人物の心情に迫っていきたい。

まとめる段階では、読み取ったことをもとに音読の工夫をし、友達と音読の聞き合いをして、表現の良さを認め合うとともに、この物語の素晴らしさに浸らせたい。さらにいろいろなお話のおもしろさやそれを伝え合うことを楽しませ、読むことへの楽しみを広げさせていききたい。

3 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

- ・易しい読み物に興味を持ち、友達に知らせたり読み合いをしたりして、楽しく読もうとしている。(読ア)

(2) 読むこと

- ・場面の様子や登場人物の気持ちなどについて想像しながら読むことができる。(読ウ)
- ・文のまとまりや内容などを考えながら、声に出して読むことができる。(読エ)

(3) 書くこと

- ・紹介したい本について必要な事柄を集めて書くことができる。(書イ)

(4) 話す・聞く

- ・紹介したい本について話の筋や思ったことなどを友達に分かるように話すことができる。(話・聞ア)

(5) 言語事項

- ・文の中の主語と述語に注意しながら読むことができる。(言エ(ア))

4 指導計画 (17時間)

段階	時間	ねらい	学習活動	具体的評価規準
つかむ	1	・全文を読んで、これからの学習に関心を持つ。 ・新出漢字を確認する。	・全文の範読を聞き、簡単な感想を持つ。	(関) 物語に興味を持って聞こうとしている。
	2	・全文を読んで、あらすじをつかむ。	・全文を通読し、意味段落ごとにスーホのしたことをおさえ、出来事の大体をつかむ。	(読) 大体のあらすじをつかんでいる。
	3	・全文を読んで、学習の見通しを持つ。	・全文を通読し、知りたいことを話し合いながら、学習課題を作り、学習の見通しを持つ。	(関) 学習への見通しを持ち、意欲を持って取り組もうとしている。
たしか	4	・ 二 の場面を読み、スーホはどんな少年かを読み取る。	・スーホの暮らしや仕事ぶりについて想像しながら読み進め、スーホの人柄を読み取る。	(読) スーホがどんな少年か読み取っている。

める	5	・ 三 の場面を読み、スーホはどんな気持ちで子馬を連れ帰ったのか読み取る。	・子馬を見つけたときの様子や気持ちをスーホの言葉に気をつけながら読み進め、なぜ子馬を連れて帰ったのか読み取る。	(読) どんな気持ちでスーホが子馬を連れて帰ったかを読み取っている。
	6 (本時)	・ 四 の場面を読み、スーホはどんな気持ちで白馬に話しかけたのか読み取る。	・オオカミから羊を守った白馬の様子やスーホが白馬に話しかける言葉に気をつけながら読み進め、スーホ軒持ちを読み取る。	(読) スーホがどんな気持ちで白馬に話しかけたかを読み取っている。
	7	・ 五 の場面を読み、白馬を取り上げられたスーホの気持ちを読み取る。	・競馬で白馬の素晴らしさを見た時と白馬の持ち主であるスーホを見たときの殿様の言葉や態度の違いやスーホの言葉に気をつけながら読み進め、白馬を取り上げられたスーホの気持ちを読み取る。	(読) 白馬を取り上げられたスーホの気持ちを読み取っている。
	8	・ 六 の場面を読み、帰ってきた白馬の矢を抜くスーホの気持ちを読み取る。	・殿様のところから逃げる白馬の様子やスーホが話した言葉に気をつけながら読み進め、帰ってきた白馬にささった矢を抜くスーホの気持ちを読み取る。	(読) スーホはどんな気持ちで矢を抜いたのかを読み取っている。
	9	・ 七 の場面を読み、馬頭琴を作って弾くスーホの気持ちを読み取る。	・白馬をなくしてからのスーホの様子や夢に出てきた白馬の言葉に気をつけながら読み進め、馬頭琴を弾くスーホの気持ちを読み取る。	(読) 馬頭琴を弾くスーホの気持ちを読み取っている。
まとめる	10	・スーホに手紙を書き、読み取ったことをまとめる。	・ 八 の場面は問いかけの□と呼応している文章であることを読み取る。 ・スーホに手紙を書いて、学習のまとめをする。	(読) スーホの優しさやスーホと白馬の心の結びつきについて読み取っている。
	11	・読みたい場面を選び、音読会へのめあてを持つ。	・好きな場面、心に残った場面について話し合い、どんな音読にしたいかめあてを持つ。	(関) 音読会に意欲を持って取り組もうとしている。
	12	・文のまとまりを考え、場面の様子や気持ちが表れるように工夫して音読する。	・読み方の工夫について考え、選んだ場面の音読練習をする。	(読) 文のまとまりに気をつけ、様子や気持ちが表れるような工夫をしている。

	13	・たがいに聞き合い、良いところを話し合う。	・グループなって聞き合い、教え合いながら音読する。 <u>関連図書</u> (モンゴルに関する本・民話・動物とのふれあいの本) 「モンゴル 大草原の風」 「帰ってきて！愛犬ナナちゃん」 「かばのモモちゃん」	(読) 文のまとまりに気をつけ、様子や気持ちが表れるような音読している。
ひろげる	14	・友達に読んでほしい本を紹介する方法を話し合う。	・紹介するために必要な事柄について話し合う	(関) 紹介する方法について考えようとしている。
	15	・話し合ったことをもとに、紹介する文を書き、練習をする。	・紹介したい本を選び、紹介文を書く。 ・紹介の練習をする。	(書) 本の紹介に必要なことを集め、文章に書いている。 (話・聞) 姿勢や口の形に気をつけ、友達の方を見て話している。
	16	・読んで欲しい本を友達に紹介する。	・話し方や聞き方に気をつけながら、グループで本の紹介をし合う。	(話・聞) 友達によく分かるようにはっきりと伝えることができ、聞き手は発表者の良いところを見つけながら聞くことができる。

5 本時の指導

(1) ねらい

おおかみから羊を守る白馬の様子や白馬に話しかけるスーホの言葉から、スーホと白馬の心の結びつきを読み取る。

(2) 展開

段階	学習内容・教師の働きかけ	期待する児童の反応	留意点・評価
つかむ	1 前時想起 ○子馬を連れてきたのはどうしてですか。 ○子馬はどんなふう to 育ちましたか。	・おおかみに食われてしまう。 ・死んでしまう。 ・すくすくと育った。 ・雪のように白い体 ・きりっと引き締まって ・だれでも、思わず見とれるほど	・子馬を助け、世話をしたスーホの優しさや愛情深さと、スーホの愛情に応えるように育っていった白馬の様子をおさえ、二人の心の結びつきについても確認する。

5分	<p>2 学習課題の確認</p> <p>○そんな毎日が続きました。今日はその次の四の場面です。課題を読みましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スーホはどんな気持ちで白馬に話しかけたのだろう。</p> </div>		
たしかめる	<p>3 課題解決への取り組み</p> <p>(1) 学習場面の音読</p> <p>●白馬やスーホのしたことを見つけながら読みましょう。</p> <p>(2) 学習場面の読み進め</p> <p>○なぜ、スーホは目を覚ましたのでしょうか。</p> <p>○スーホは何を見ましたか。</p> <p>○白馬はどんなふうに防いでいましたか。</p> <p>○なぜ白馬はこんなに必死になって羊を守ろうとしたのでしょうか。</p> <p>(3) 視写</p> <p>○そんな白馬を見てスーホはどうしましたか。</p> <p>○どんな気持ちで話しかけたのか、考えるために書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スーホは、あせまみれになった白馬の体をなでながら、兄弟に言うように話しかけました。 「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。これから先、どんなときでもぼくはおまえといっしょだよ。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・順番読み ・けたたましい馬の鳴き声 ・羊のさわぎ ・大きなおおかみが羊にとびかかろうとしていた。 ・立ちふさがって ・必死に防いでいた。 ・長い間 ・あせびっしより ・スーホの大切な羊だから。 ・スーホへの恩返し。 ・スーホが大好きだから。 ・かけよった。 ・白馬をなげた。 ・話しかけた 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーホのしたことに焦点をあて、スーホの気持ちの動きをとらえるようにさせる。 ・スーホへの愛情に応えるほかに白馬自身のスーホへの思いにもふれ、心の結びつきをとらえさせる。

<p>た し か め る</p> <p>35 分</p>	<p>○一人学び (作業が進んでいる児童のための手立て)</p> <p>・視写文を読み返す。 ・分からない言葉に点線を引く。 ・気持ちが分かるところにサイドラインを引く。 ・その時の気持ちを書き込む。</p>		
	<p>(4) 学び合い ○視写した文を読みましょう。</p> <p>○どんなことをしましたか ○どんなことを話しましたか。</p> <p>○話したことを2つに分けましょう。</p> <p>一つめのまとめ ○何のお礼を言っているのですか。</p> <p>○スーホはどんな気持ちで話しているのでしょうか。</p> <p>○すごくうれしいと分かる言い方をしているところはどこですか。</p> <p>二つめのまとめ ○「いっしょだよ。」と言っています。だれとだれがいっしょなのですか。 ○いついっしょなのですか。</p> <p>○スーホはどんな気持ちで話しているのでしょうか。</p> <p>○スーホの強い気持ちが分かるところはどこですか。</p> <p>○スーホはこれらの言葉をどんなふうに白馬に話しかけましたか。</p>	<p>・黙読 ・一斉読</p> <p>・話しかけた。 ・「よくやってくれたね〜。」</p> <p>・「〜ありがとう。」までと「これから先、〜」から。</p> <p>・羊を守ってくれたこと。</p> <p>・うれしい。 ・白馬のおかげ</p> <p>・本当に ・〜ね。</p> <p>・スーホと白馬</p> <p>・これから先 ・どんなときでも</p> <p>・白馬と離れたくない。 ・いつもいっしょにいたい。 ・白馬が大好きだ。</p> <p>・どんなときも ・〜よ。</p> <p>・兄弟に言うように</p> <p>・家族と同じくらい大切</p>	<p>・視写文の中で分からない言葉は意味を確認する。 あせまみれ ・主述をしっかりと押さえる。</p> <p>・白馬への感謝とこれからはずっといっしょだという約束の気持ちをしっかりととらえさせるために視写文を分けて考えさせる。</p> <p>・「本当に」「〜ね」のない言い方を読み比べさせて、その気持ちに迫らせる。</p> <p>・「どんなときでもいっしょ」という言葉は、これからの場面につながるため、しっかり印象づける。 ・「どんなときも」「〜よ」のない言い方を読み比べさせて、その気持ちに迫らせる。</p>

	○兄弟に言うようにというのは、今までの気持ちとどんなふうにかがうのでしょうか。	・今までよりももっとなかよし。	評 スーホの白馬に対する気持ちの深まりを読み取っているか。
まとめ 5分	4 学習のまとめ ○まとめの音読をしましょう。 ●スーホの気持ちを考えながら読みましょう。 5 次時の学習内容確認 ○次は、競馬に出て、殿様に白馬を奪われてしまう場面を読みませう。	・一斉読	

(3) 具体的評価規準

	A	B	支援の手だて
スーホはどんな気持ちで白馬に話しかけたか読み取ることができる。 ※発表内容や音読のしかたのほか、サイドライン・書き込み等のノートの記述から評価する。	・スーホの言った言葉や様子を表す言葉を手がかりにするとともに、これまでの場面と比較しながら、スーホの白馬に対する気持ちがこれまでよりさらに深くなっていることをとらえている。 (発表・観察)	・スーホの言った言葉や様子を表す言葉を手がかりにしてスーホの白馬に対する気持ちをとらえている。 (発表・観察)	・音読を工夫させたり、友達の音読を聞かせることで、スーホの気持ちに気付かせる。

(4) 板書計画

「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。」

でも、これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」

挿絵

あるばんのこと
大きなおおかみ

白馬 ← ひつじ

四

スーホの白い馬

スーホは、どんな気持ちで白馬に話しかけたのだろう。